

患者喜ばせる 栄養士めざす

将来に向かって

若者コーナー

患者喜ばせる
栄養士めざす

藤本沙弥15歳中学生

(荒尾市)

私は小学5年生の時に祖父が入院したのをきっかけに、栄養士になりたいという夢を持ちまし

た。手術や慣れない入院生活をして頑張っている患者さんにとって、家族や友達と話すこと、そして食事を楽しむの1つだと思ったのです。

ただし、病院の食事は患者さんの体に合わせて味が薄かったり、ご飯が

軟らかかったりと、いろいろ工夫されています。家で食べている食事とは違って、なかなか病院のご飯に慣れない人もいます。私には、だから私は献立を工夫して、患者さんに笑顔になってもらいたいと思いました。

この夢がずっと変わら

なかったわけではありませんが、友達と話さず、同じ夢にしようかと気持ち揺れ動いたこともありました。でも、そのような理由で決めた夢は自分のためにならないし、頑張らなければいけない時にもすぐ諦めてしまうと思います。そう考えたとき、私はやっぱり栄養士になりたいと改めて決意しました。

この気持ちを家族に伝えると、真剣に話を聞いてくれてとても安心しました。高校では家政科の「食」のコースで専門的に学び、栄養士になれるよう頑張っていきたいと思います。

